

上川町から考える里山地域のまちづくりの可能性

■開催概要

1. 日時・会場

平成 31 年 3 月 2 日（土） 13 時～15 時
上川農村環境改善センター（八王子市上川町 925-1）

2. 協力

明治大学理工学部建築学科教授 園田 真理子さん
明治大学理工学部建築学科兼任講師 安部 良さん
八王子市まちづくりアドバイザー 三島 由樹さん

3. 参加者

84 名

4. 目的・内容

地区まちづくりフォーラムは、市民の皆さまとまちづくりアドバイザーなど専門家との意見交換等を通じて、「地区まちづくり推進条例」をご理解、ご活用していただくことを目的としています。平成 20 年（2008 年）より年に一回の頻度で開催させていただいており、参加者の方々にはまちづくりワークショップの体験の機会、まちづくり協議会の方々には活動成果の発表や今後の活動を盛り上げる機会となっています。

今年度は、「上川町から考える里山地域のまちづくりの可能性」と題し、里山地域のまちづくり活動の周知・報告、里山地域のまちづくりへのモチベーション向上を目的に開催しました。

■フォーラム経過

第 1 部 建築学生による成果発表

「上川地区の場所性とコミュニティ創造のための建築の可能性」

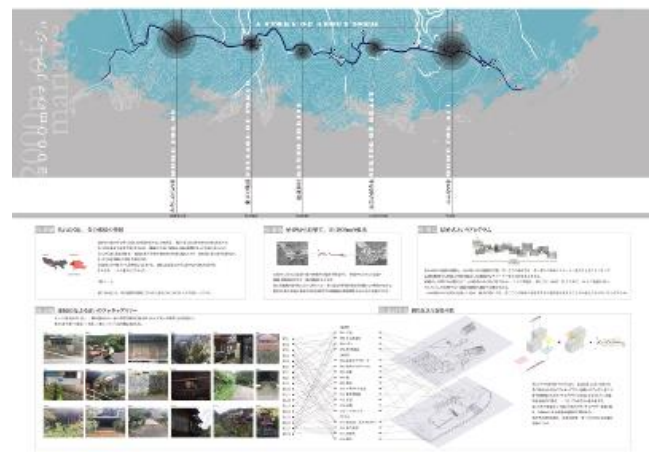
○概要説明

明治大学理工学部建築学科兼任講師の安部良さんより、自己紹介や今回上川地区を対象に建築設計課題を出した経緯を兼ねて、「醍醐地区の魅力と可能性」と題して、ご紹介いただきました。以下、内容抜粋となります。

- ・授業の一環で、八王子の上川地区や醍醐地区を対象として、建築的な提案を通じて地域活性を目指すことを、園田先生と共に行った。
- ・八王子との出会いは、東京大学まちづくり大学院での課題であり、小津の休耕田を借りて空

き家活用するプロジェクトを実施した。翌年から、明治大学でも同様の課題を課すようになった。

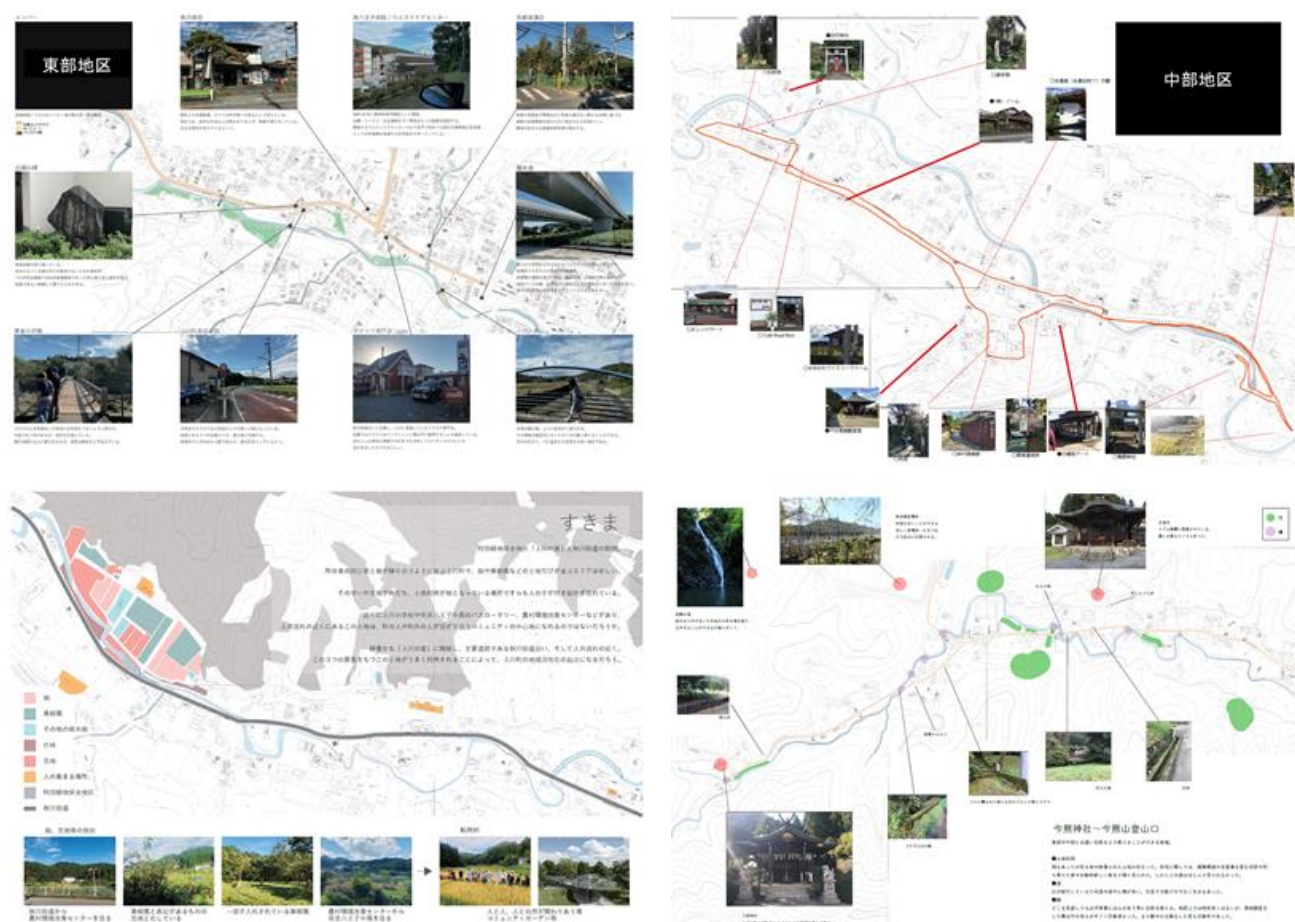
- ・小津では、東京大学の課題ののち、ピザ釜の製作やイベントの開催などを行い、学生のプロジェクトが実際に形になった。来訪者にも「日本の原風景」として認識されており、潜在的な魅力や資源が多いと感じている。
- ・翌年、醍醐地区を対象として明治大学の設計課題を課した。川の資源や集落の特徴、地域全体、空き家、傾斜地、林道、神社などを活かすため、劇場や酒造り、ゲストハウス、結婚式場、福祉施設などを導入する提案がなされた。



○上川地区の成果発表-上川地域資源と魅力

明治大学理工学部建築学科教授の園田眞理子さんより、学生の課題である上川地区を対象とした建築設計をするにあたって地区を調査した内容を、「上川の地域資源と魅力」と題して、ご紹介いただきました。以下、内容抜粋となります。

- ・ 2011年に指定された「上川の里 特別緑地保全地区」をはじめ、上川地区の魅力を最大限価値向上していくアイデアを探しているということで、今回課題の対象敷地とした。
- ・ 地域のことや地域の場所性や個性を調査理解した上で、地域の可能性や課題を整理し、何かしら可能性のあるテーマを捻り出すことを目的としていた。
- ・ 統計データによる比較や地域資源調査、公共施設調査などを通じて、学生が魅力的だと感じた場所を抽出し、さらに詳しく調べた。
- ・ 東部地区からは、高架下やフクロウ専門SHOP、黒沢商店、東釜の沢橋を抽出した。
- ・ 中部地区からは、農園・良景、ようじアート展示館、戸沢観音堂、株式会社ノーム、ROAD REST、田守神社、上川の里で活動する森のライフスタイル研究所、廃れた工業・資材置場（ネガティブではなくポジティブに捉えている）を抽出した。
- ・ 西部地区からは、すきま（上川の里と秋川街道のすきま）、上川口小学校、上川農村環境改善センター、福寿寺、今熊のえき、上川町西部会館を抽出した。
- ・ 今熊神社～今熊山登山口からは、旧小峰トンネル、正福寺、新多摩変電所、金剛の滝、今熊神社を抽出した。

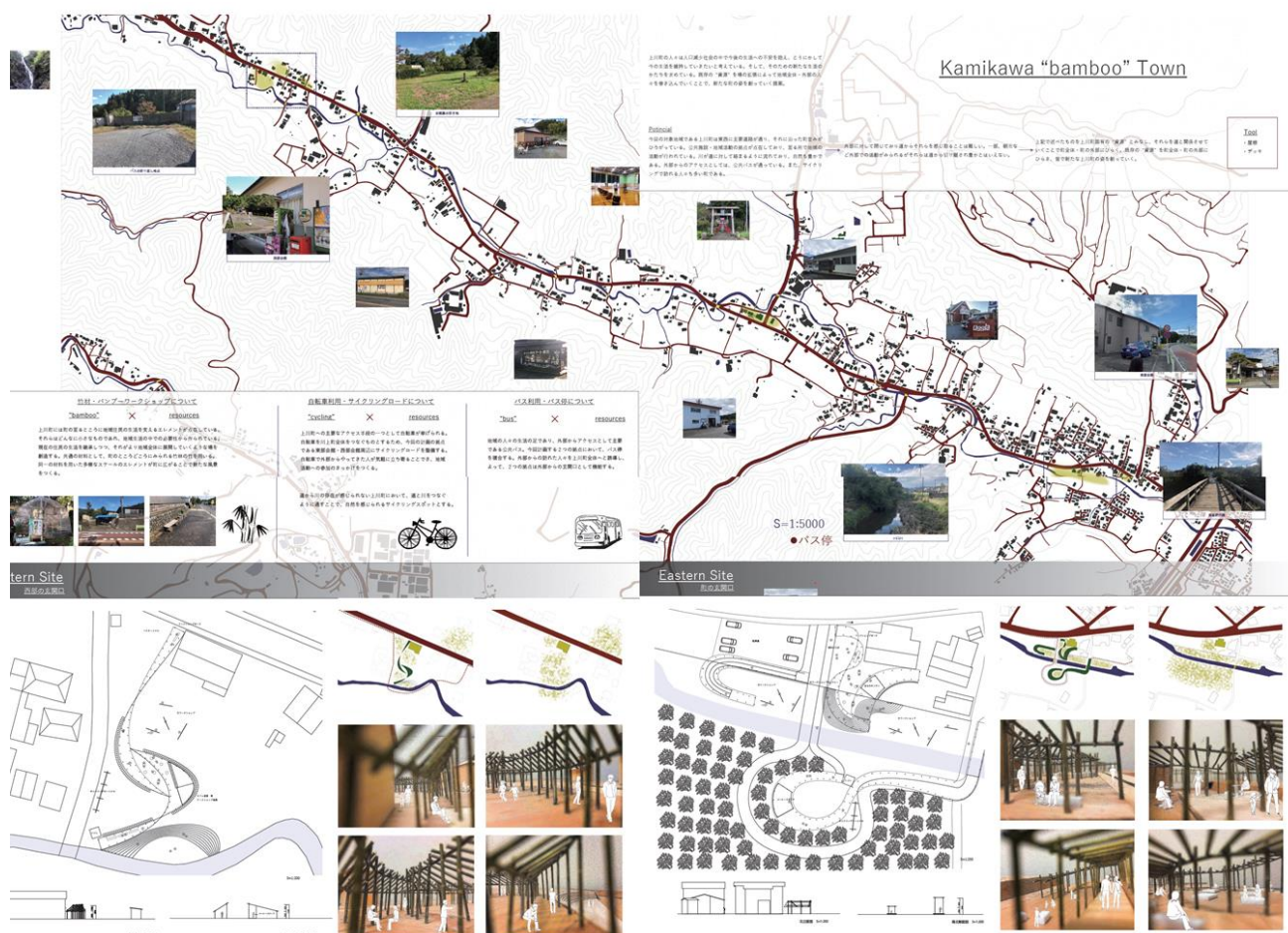


○上川地区の成果発表-作品紹介

安部良さんと園田真理子さんより、上川地域資源と魅力調査に基づいた学生による建築設計提案の作品をご紹介します。以下、内容抜粋となります。

【Kamikawa “bamboo” Town】

- ・上川町固有の資源「竹」と道とを関係させて、新たな上川町の風景をつくる。
- ・対象敷地である西部会館及び東部会館に、サイクリングロードとバス停を複合し、川と道を繋ぐ竹のパビリオンを提案した。
- ・同じように中部会館にもパビリオンができ、ネットワークができることを想定している。



【上川町・自然再発見】

- ・上川霊園のお墓参りをきっかけに、地元住民と交流することで、内外両方の視点から上川町のよさを発見する。
- ・人間の手が入っていないような上川地区の最西部に自然環境を活かし、ひっそりと佇む宿泊施設を設計した。
- ・単なる宿泊施設ではなく、共同キッチンを通じて地元住民と来訪者が関わり合い、来訪者にとって第二の故郷となるような新しいライフスタイルと共に提案した。

上川町・自然再発見

現代人は老若男女
自然の風の中で過ごすことの心地よさを
忘れてないだろうか。

上川霊園にお墓詣りに来た人

お墓まいりは久しぶりに墓域が懐かしく思える。上ノ町にある自然連れの墓で墓域がゆっくり。

墓心では無いが自然の中で生活、世間とのふれあいで暮らしを。

子供たちの自然環境にもなるのでお墓まいりも自然とやる機会が増える。

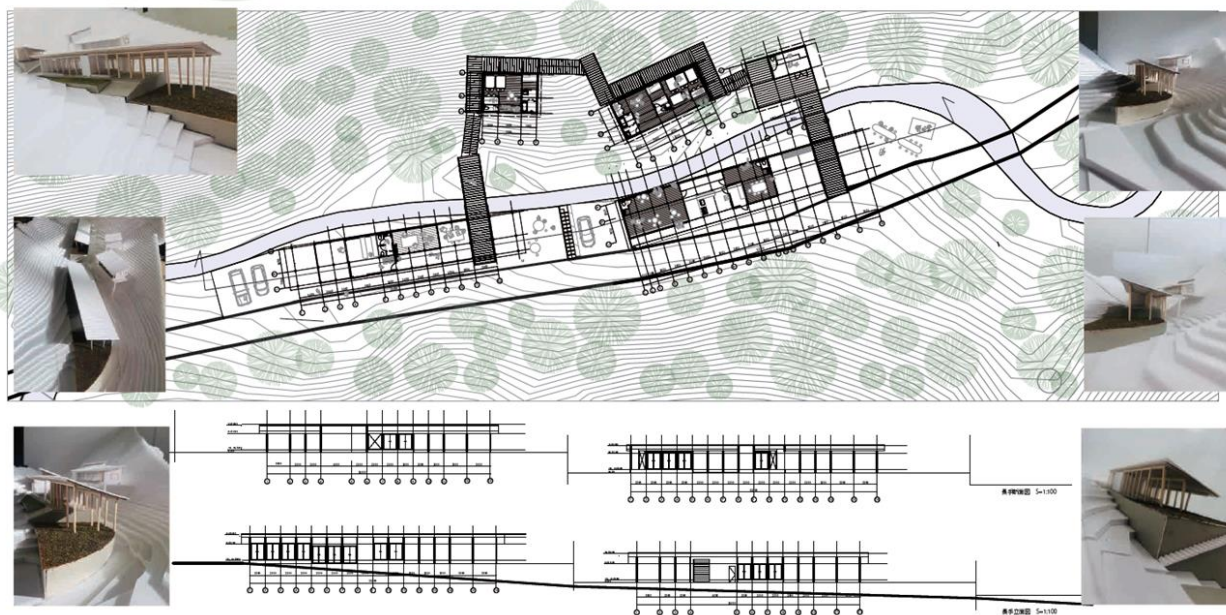
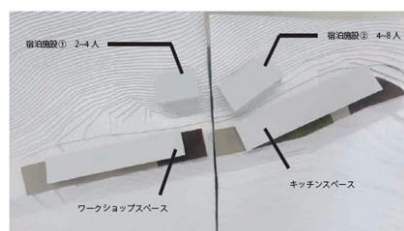
上川町の住人

再発症
 自然体験
 交流
 林道整備

山はすぐ近くにあると思っ
 てくるとはなかなかない
 こと。そこにはまた違った
 世界がある。

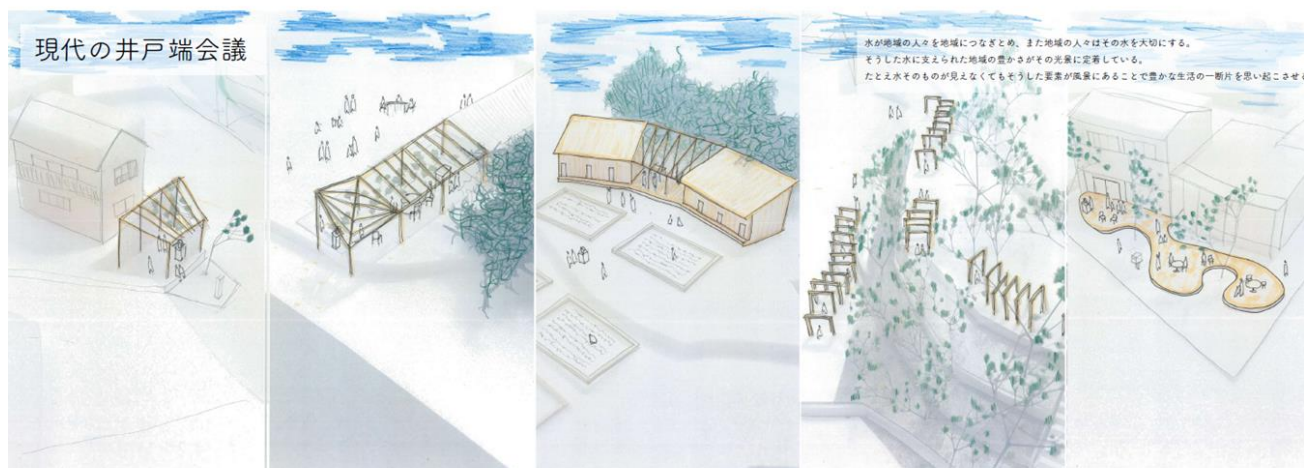
町には見れていないこの自然も
 人間が入りこくことで自然と
 繋がれる

みんなで町の魅力を誇り誇っ
 て自分たちで自分たちで



【現代の井戸端会議】

- ・井戸周りにコミュニティスペースをつくる。
- ・既存の井戸だけでなく新しい井戸も掘り、井戸をひとつのコミュニティ空間とし、地域のコミュニティが目に見える形で町に現れてくることを想定し、複数のパビリオンを設計した。
- ・対象敷地は井戸が防災の拠点となることを想定し、今熊神社・新多摩変電所合流点、今熊のえき、バス停留所付近荒地、上川口小学校、黒沢商店とした。



- 現状分析

川の成り立ちを観察できる川口川の存在が上川町の大きな特徴であり一帯の魅力である

→しかし、川との距離が遠い、放置され瀬切れを起こしている、といった現状があり川の可能性を生かさせておらず地域住民の意識からも外れてしまっているのではないだろうか

川口川
茨城県
鴻川支
の町を
近年で
調査で
あった。
川幅約
数米す

- コンセプト

水をもっと身近に感じるために井戸周りのコミュニティスペースを計画する。井戸をひとつのコミュニティ空間として捉え、様々な性格を持たせ上川町に散りばめる。

こうした井戸をきっかけとした集いの場を数カ所に計画していくことで結果として地域のコミュニティが目に見える形で町に現れていく。



- 設計手法

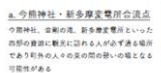
「水があるところで緑が育つ。その緑の元に人が集う」

井戸と縁をセットで考え、木に寄り添うように集いの
を形成する。井戸の具体的な活用方法としては縁の水
りとする。



- 对象数地

井戸が防災の拠点となることから集う潜在性をもつ敷地を選定した



→観光案内所兼フーリスト達の休憩所

b. 今熊のえき

都市が開かれる場所であ
地域住民の憩いの場とな
ポテンシャルがある



c. バス停留所付近荒地

バス停のそばに位置することから町外の人々が訪れやすい場所であり人を呼び込むことができる可能性が大きい。



→ [アザーズのための書庫と小さな休憩所](#)



d. 上川口小学校
地域にとって重要な施設として存在している
→つくろふことができるグート



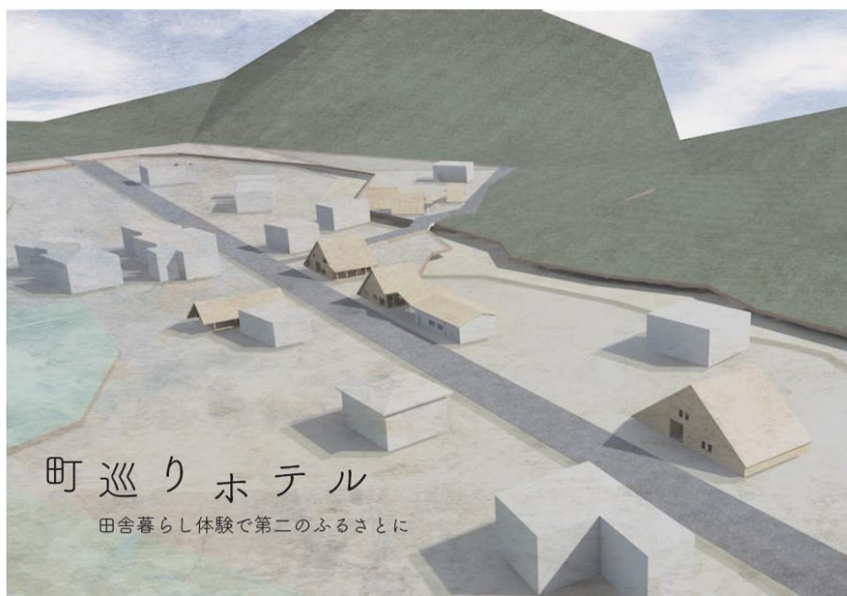
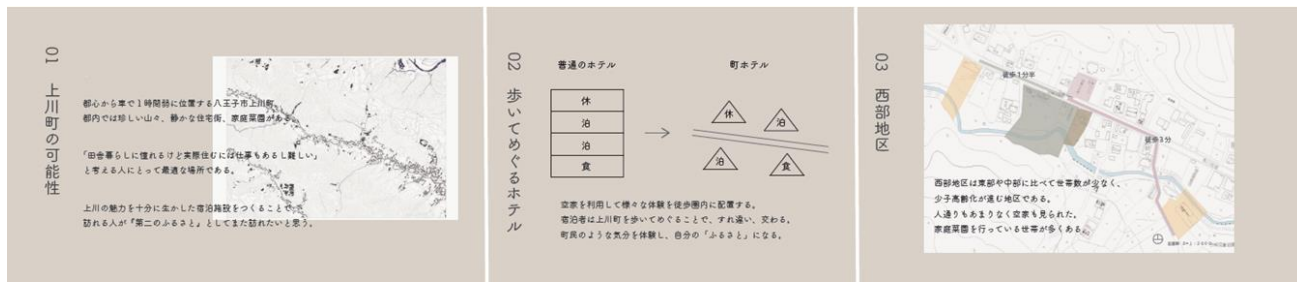
e. 嵐沢商店
 駄菓子や日用品を売っているが何年もの親いきたお店で
 あり、人が集まるポテンシャルを持っている。
 →嵐沢商店の駄菓子屋としての機能を残しつつ、様々
 な人がくつろぐことのできるテラス

→風情商店の就業手帳としての機能
な人がくつろぐことができるテラス



【町巡りホテル】

- ・上川の魅力を十分に活かした宿泊施設をつくることで、訪れる人が「第二のふるさと」を感じてもらう。
- ・空き家を利用して様々な体験ができる施設を配置し、近隣全体を歩いてめぐることができるような宿泊施設を設計した。
- ・くつろぐ、あそぶ、つくるなど複数の宿泊プランを提示し、上川地区が第二のふるさととなるようなライフスタイルを提案している。



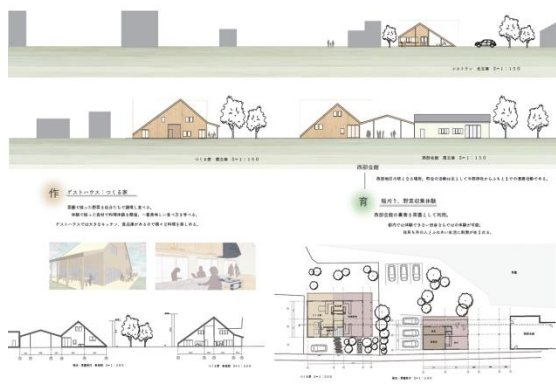
今熊の駅

地方の方が有志で行っている朝市。野菜を持ち寄られて販売してる。

食

食 家庭菜園持ち寄りレストラン

ゲストハウスに宿泊した人たちをもてなすレストランを作る。
シルバー世代が出かける機会を作る。食事とおしゃべりを楽しむ場になる。

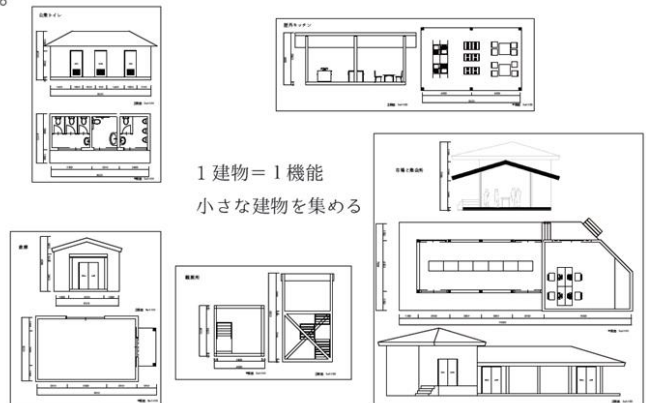


【上川町 3.0 再興する水彩地区（発電）】

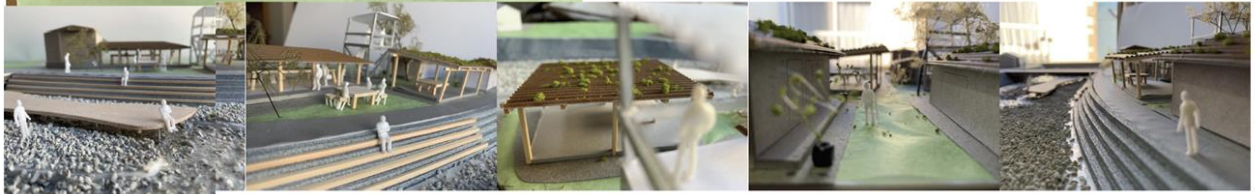
- ・ 水資源の重要さに気づき、棚田や川の整備をすることで、コミュニティの場をつくる。
- ・ 川口川は水質改善率で全国2位に選ばれたものの、川辺は枯草などの滞留物により気持ちのよい空間とはなっていないことに着目し、川を綺麗にする活動とともに川辺に集う場所、さらに水力発電を行う施設を提案した。
- ・ 水力発電基礎や発芽屋根、木製被擁壁などの工学的デザインを参考に、複数の施設を一体的なランドスケープとして成り立つように配慮した。

部分を設計し、全体に波及。

工学的デザインからランドスケープ的景色を作る。



1 建物 = 1 機能
小さな建物を集める



上川町 3.0～再興する水彩地区～

STORY



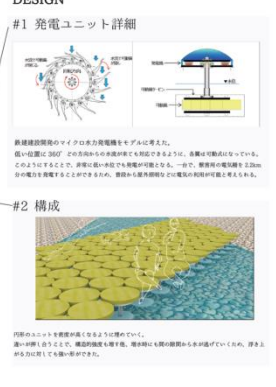
RESEARCH



DO

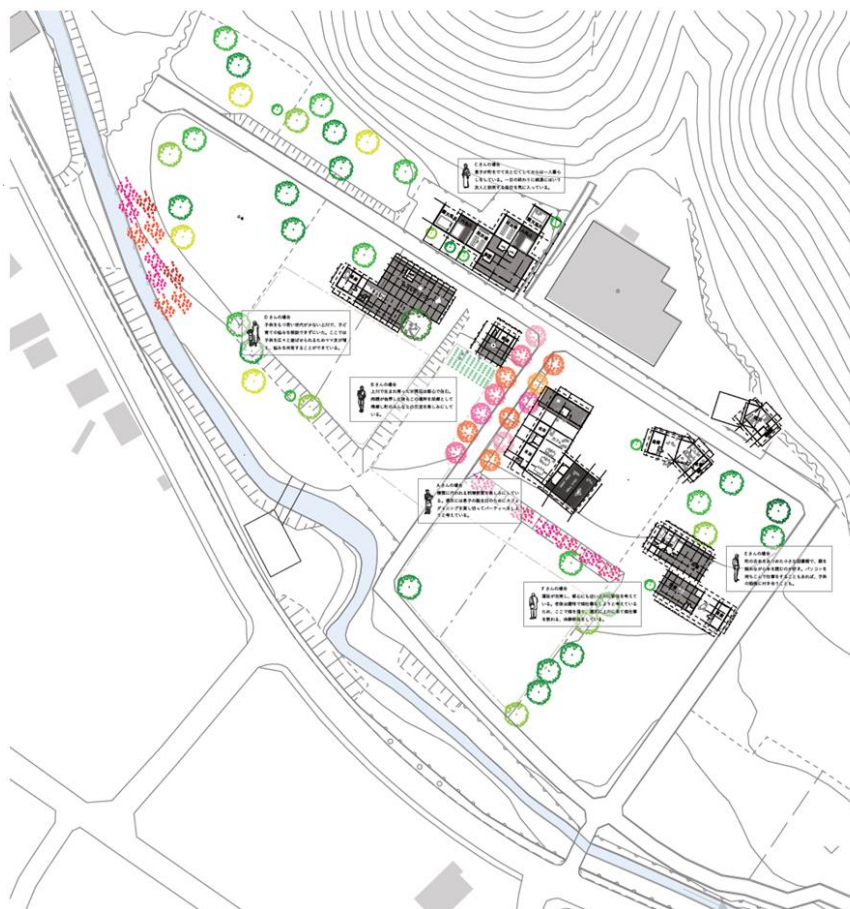
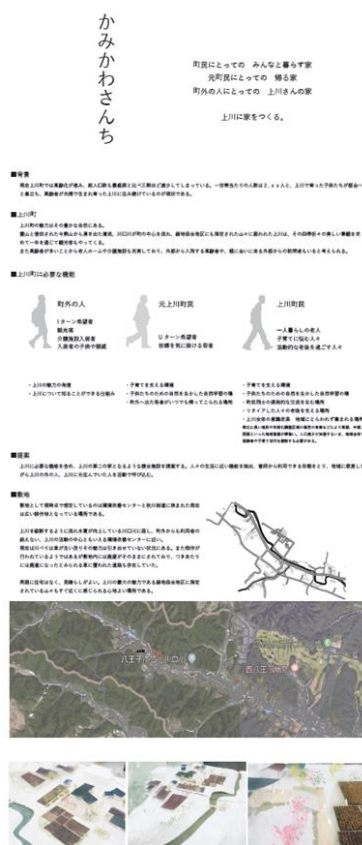


DESIGN



【かみかわさんち（クラインガルテン）】

- ・町民、元町民、町外の人にとっての「上川さんの家」をつくる
- ・学生二名による共同設計として、上川農村環境改善センターと秋川街道に挟まれた広い耕作地に対し、一軒の家となるような複合体験型宿泊施設を提案した。
- ・農業体験を軸に、町外の人、元上川町民、上川町民それぞれにとって必要な用途を複合するとともに、具体的な利用方法をそれぞれのライフスタイルとともに提案することで、この宿泊施設が第二の家となることを想定している。



○パネルセッション

ご来場の方々に会場内の展示作品を個別自由にご覧いただきました。また、共感できた作品に応援メッセージやいいね！シールを貼っていただきました。以下、集計結果とパネルセッションの様子となります。

No.	タイトル	応援メッセージ	いいね! シール数
1	Kamikawa “bamboo” Town	・竹の利用でいい。材料が豊かにあるので。 ・地産地消で竹は、上川の大きな財産。これを利用して他に無い造型を期待する。	15
2	上川町・自然再発見		11
3	現代の井戸端会議		5
4	町巡りホテル	・滞在・交流人口を増やす魅力ある空間だと思います。 ・里山主義、音楽、本、Art、1日をゆっくり過ごす。自然のおいしい物を食す。	7
5	上川町 3.0 再興する水彩地区(発電)	・川と水と森が大地を守り人を守るので、川の再興希望します。	16
6	かみかわさんち(クライנגル テン)	・里山、農→「食」←林業、農業、Art	22
7	媒介建築	・栗の木広場の場は、気持ちがよい。 ・上川口小が廃校になるかも？	5
8	二輪車で紡ぐ上川のまち ～川と建築、山と建築～		0
9	墓地村通り		1
10	集活、終活、就活のまち 上 川町	・上川病院をはじめ空家を中心に何かをしていく事に賛成です。地元の底力を出せるようなものを考えられたらなあ～と思います。	2
11	自然と共に回遊する町 上川農村環境改善センター ～上川の里へ		2
12	滞在型貸し農園	・高齢化に歯止めをと思ってます。貸農園が実現すれば町も活性化したいと思います。心配は、ルールを守って生活することだと思います(地元の方、来た方)。	11

13	自然とそれに対するもの		2
14	kamikawa mall		0
15	「木」で再興する上川		3
16	偶然を必然に。必然を繰り返す。		0
17	人と人をつなぐまちの図書館	・図書館は全ての情報の発信源です。実現できたらいいと思います。 ・若い方達とのコミュニケーションを楽しみにしています。本はつながりが早い！ ・子育て世帯に魅力ある提案でとても良い	5
18	親子で楽しむ室内レジャー施設「学びの森」		3



第2部 パネルディスカッション（意見交換）

「里山地域がこれからのまちづくりで目指すべきこと」

八王子市まちづくりアドバイザーの三島由樹さんにコーディネーター、園田真理子さんと安部良さんにパネリストをお願いし、「里山地域がこれからのまちづくりで目指すべきこと」と題して、意見交換を実施しました。以下、内容抜粋となります。

○上川町から考える里山地域のまちづくりの可能性（三島さんによる自己紹介）

- ・これまで携わってきた仕事を紹介する。八王子の AJIROCHAYA では、まちに開かれた庭となるような計画とした。加賀では PLUS KAGA PROJECT として外から学生を呼び、地元の人が気づけないような地域資産を活用した提案を行ってもらった。小津には東京大学を通じて関わったことがあり、3年という短期間で市広報に掲載されるくらい注目されるようになったことには驚かされている。高月の「農」のまちづくりにも携わっており、地域の高齢者だけでなく外部の学生などを巻き込み多世代に渡って意見交換ができるような場づくりに努めている。
- ・まちづくりと言われると、誰もが建物をつくれるわけではないため難しい。そこで、てづくりという言葉から連想し、「まちづくりとはまちをつくることではなく、まちでつくること」と考えるようになった。
- ・まちづくりには人が重要である。住む人（住人、移住者）、来る人（関係人口）、動く人（活動人口）。
- ・今回の明治大学の課題は大きなチャンスであり、地域の人をお願いがある。学生たちが自由にできるようにしてあげてほしい。学生に〇〇やってほしいとお願いばかりしていると離れていってしまう。地域の人が学生と本気で向き合って自由にやってもらう（まきこむ）。そうすると、学生が関係人口になっていくため、明治大学の学生を逃がすべきではない。

○イイね！シールの順位発表・講評

- ・1位「かみかわさんち（クラインガルテン）」、2位「上川町 3.0 再興する水彩地区（発電）」、3位「Kamikawa “bamboo” Town」となった。これらについて、会場の意見を聞きたい。

【かみかわさんち（クラインガルテン）】

- ・敷地が上川地区の中で一番目立つところ。ここから上川のまちづくりがはじまると感じた。
- ・上川地区に住んでいて、宿泊施設というのはあまりお客が来ないのではという消極的な考えもあったものの、なんとなくよい案に感じられた。
- ・人口が減少する中で交流人口を増やすことを考えると、このような施設があるとよいと感じた。

【上川町 3.0 再興する水彩地区（発電）】

- ・上川の川に着目していただいたということで共感がもてた。
- ・上川地区は以前住んでいた北杜市の環境に似ている。そこで、川をきれいにしていきたいという思いと、最初から箱モノをつくってほしくないという思いがあったため選んだ。

【Kamikawa “bamboo” Town】

- ・竹の個性を見極めることで、あれ以上ない素材になる。上川の自然のよいところを利用しない手はないと感じた。
- ・箱モノはあまり好きではないが、ぜひ竹を使ってつくっていただきたいと感じた。

【来場者の感想を踏まえて】

- ・上位の提案を見ると畑や川、竹など上川地区の資源を有効に活用した提案となっており、上川の本質的なポテンシャルと学生のアイデアがリンクしたものであったように思う。（三島）
- ・投票1位の「かみかわさんち（クラインガルテン）」は難しいテーマであったことから、課題時点では着地点が見えてこず、設計としての評価が高いわけではなかった。ただ、今回のフォーラムのために作業を進めてもらい、この敷地の高いポテンシャルを引き出した提案になったように感じた。（安部）
- ・「かみかわさんち（クラインガルテン）」と票の多かった「滞在型貸し農園」に通じることとして、背景に緑地、前面に川、そしてそのすきまは、場所としてのポテンシャルが高いことを示している。この場所でなにかができると思う。（園田）
- ・箱モノをつくらないというのは、まさに名言である。「上川町 3.0 再興する水彩地区（発電）」については、川とどのように関わっていくかがテーマである。第一に、川をきれいにする。第二に、人が集まる場所をつくる。第三に、エネルギーをつくる。箱モノではないということの評価していただいてうれしく思う。（園田）
- ・レベルが高い提案だと思うとともに、みんなで力を合わせれば実現も可能ではないかと感じた。「かみかわさんち（クラインガルテン）」も「上川町 3.0 再興する水彩地区（発電）」も、まずはできることから考えているのがすごいと感じた。今後も継続的に学生と関わっていければよいと感じた。（三島）

○近隣参加者からの感想

- ・もともとは上川地区と同様に、高齢化と耕作放棄地をどうにかしようというところから、小津のまちづくりは始まった。
- ・まちづくりを進める中で、法人として農地を借りたい、外部の人の力を借りたいといった関係から町会ではなく、NPOとして活動したほうがよいという判断に至り、今では80名ほどの会員がいる。
- ・学生の発表を見て、そんな夢物語はできないと感じるか、まずはできるところから始めてみようと思うかによって、今後の動きは変わってくると思う。小津は、できることからやってみようという精神で始めて、4年くらい経過した。
- ・小津はまちづくりをする中で10カ条などを設けているが、基本は活動を楽しもうという気持である。
- ・自分たちの住んでいるところの魅力はわかりづらいものである。悪いところは気づくがいいところは気づかない。しかし、外の学生はこんなにいいところがあると教えてくれる。そこで、自然環境と住居環境を保持しながら、地域の資源を活用するまちづくりを進めている。

○地元参加者からの感想

- ・ 昨年の恩方での発表に参加し、上川地区でもぜひやってみたいと感じた。そこから1年で実現できるとは思ってなかったため、貴重な時間をいただけたと感じている。
- ・ 提案でも敷地にされていた圏央道高架下の活用は現在市公園課やネクスコに相談中。東釜の沢橋周辺はホテルも出るためよい場所である。3.2haの都市公園も計画されているため3町会力を合わせたい。上川の里での活動も継続されている。さらにトレーラーハウスが資料館になる。田んぼについても活用していくイベントも考えていきたい。お願いばかりではなく楽しめるようなものにしていきたい。
- ・ 農村環境改善センターを活かしていきたい。地区の課題である高齢化、空き家にマッチする提案が多かったように思う。できるだけ協力していきたい。
- ・ 上川町は伝統を活かしてまちづくりを進めていきたい。田守神社や今熊神社の獅子舞もあることが特徴である。上川口小学校の児童が獅子舞の伝統を受け継いでいてくれている。
- ・ 上川連合町会では、地区の人づくりを目的に昨年からNPO法人である「まちづくり上川」を発足している。今後も積極的に活動を進めていきたい。

